

岩手県高等学校総合体育大会フェンシング競技開催ガイドライン

1 開催に向けての前提

- (1) 2週間前から健康観察を行い、参加選手およびスタッフが試合に向けたコンディションが整っている。
- (2) 競技会に関わる関係者、参加選手、スタッフが日常において「新しい生活様式」に従って感染対策を実践している。
- (3) 競技会会場において競技会の主催者が十分な感染防止対策を実行できる。

2 留意すべき基本方針並びにチェックポイント

(1) 基本方針

- ① 三つの密（密閉、密集、密接）の発生が原則想定されないこと（人と人との間隔はできるだけ2mを目安に）
- ② 大声での発声、歌唱や声援、又は近接した距離での会話等が原則想定されないこと
- ③ その他、必要に応じて、適切な感染防止対策（入場者の制限や誘導、手指の消毒設備の設置、マスクの着用、室内の換気等）が講じられること

(2) 高校総体開催・実施時の感染防止チェックリスト

①主催者

全般的な事項

- 感染防止のため主催者が実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所（イベントの受付場所等）に掲示すること
- 各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認すること
- 障がい者や高齢者など利用者の特性にも配慮すること
- 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、参加当日に参加者より提出を求めた書面について、保存期間（少なくとも1月以上）を定めて保存しておくこと

参加募集時の対応

- 参加者が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求めること（当日に書面で確認を行う）
 - ・体調がよくない場合（例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2m以上）を確保すること（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）
- イベント中に大きな声で会話、応援等をしないこと
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと
- イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

当日の参加受付時の対応

- 受付窓口には、手指消毒剤を設置すること

- 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛けること（状況によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限することも考えられる）
- 人と人が対面する場所は、可能であればアクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること
- 参加者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行うこと
- 受付を行うスタッフには、マスクを着用させること
- 当日の受付のほか、イベント前日の受付を行い混雑を極力避けること
- 参加者から以下の事項を記載した書面の提出を求めること
 - ・氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号）※個人情報の取扱いに十分注意する
 - ・当日の体温
 - ・利用前2週間における以下の事項の有無
 - 平熱を超える発熱（おおむね37度5分以上）
 - 自覚症状（咳、のどの痛みなど風邪の症状、倦怠感、息苦しさ、嗅覚や味覚の異常 等）
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

参加者への対応

- マスク等の準備
 - 参加者がマスクを準備しているか確認すること
 - 参加の受付、着替え、表彰式等の運動を行っていない間については、マスクの着用を求めること
- スポーツイベント参加前後の留意事項
 - 競技前後のミーティングや懇親会等においても、三つの密を避けること
 - 会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮すること

イベント主催者が準備すべき事項の対応

手洗い場所

- 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意すること
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を必要に応じて用意すること（布タオルを常備しないようにすること）
- 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を用意すること

更衣室、休憩・待機スペース

- 他の参加者と密になることを避けること（障がい者の介助を行う場合を除く）
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じること
- 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、こまめに消毒すること
- 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮すること
- スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをする

洗面所

- トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）については、こまめに消毒すること
- トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること
- 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意すること
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること
- 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意すること（参加者にマイタオルの持参を求める）

飲食物の提供時

- 参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること
- スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供すること（ただし、ドーピング検査の対象となる者が参加するイベントでは、未開封の飲料を提供しなければならないこと）
- 果物等の食品については、参加者が同じトング等で大皿から取り分ける方式を避け、一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供するなど、工夫を行うこと
- 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること

観客の管理

無観客

スポーツイベント会場

- 換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行うこと
- 換気設備を適切に運転すること
- 定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行うこと

ゴミの廃棄

- 鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用すること
- マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒すること

参加者が遵守すべき事項

- 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる（利用当日に書面で確認を行う）
 - ・体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等の運動を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること）
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
- 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ 2m 以上）を確保すること（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）
- 大きな声で会話、応援等をしないこと
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと
- イベント終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること
- イベントの前後のミーティング等においても、三つの密を避けること

参加者がフェンシング競技会に参加する際の留意点

アップおよび武器検査等手続き中の留意点

- 選手・コーチ・スタッフは一般のマスクの着用を原則とする
- 他の選手やコーチ、スタッフ等との距離（できるだけ 2m 以上）を確保すること

競技中の留意点

- コーチは一般のマスクの着用を原則とする
- 選手は原則として競技中に発声してはいけない
- 選手は審判への説明や抗議を行う際には、発声することが出来るが、距離（できるだけ 2m 以上）を確保すること
- 選手は競技終了時に選手や審判、コーチ等と握手等の接触は行わない

- 審判はフェイスガードと一般のマスクの着用を原則とする

その他の注意点

- フェンシングウェアやマスク等の用具を貸与あるいは共有してはならない
- やむを得ず剣等の用具を貸与あるいは共有する際はアルコールによる消毒を行う
- タオルの共用はしない
- 飲食については、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにする
- ドリンクの回し飲みはしない
- 飲みきれなかったスポーツドリンク等は持ち帰り確実に処分する

以上

(参考とさせていただいた資料)

公益財団法人日本フェンシング協会 「フェンシング競技向けガイドライン」